

祝「知立の山車文楽とからくり」  
—ユネスコ無形文化遺産登録—

祝「知立の山車文楽とからくり」  
ユネスコ無形文化遺産登録！  
（世界に誇る 知立の宝）

12月1日(木)、全国33団体の「山・鉾・屋台行事」の一つとして「知立の山車文楽とからくり」が、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

▼問合せ 協働推進課 秘書広報係 (☎)95(0)112

文化課 文化振興係 (☎)(83)1133



知立山車連合保存会  
会長 加藤敏三

先人たちより270年に亘り受け継がれてきた「知立の山車文楽とからくり」が、このたびユネスコ無形文化遺産に登録されたことは誠に喜ばしい限りであり、登録へご尽力頂いた関係の皆さま方へ深く感謝申し上げます。

今後ますます技術の向上に精進し後継者育成に励み、後世へ立派に伝統を引き継いでいけるよう努力してまいります。





【ユネスコ無形文化遺産とは】

各地域で長い時間をかけ受け継がれてきた演劇、祭礼、工芸技術などの、次世代へ伝えていくべき無形の文化を指し、2006年に発効された「無形文化遺産保護条約」に基づき、「人類の無形文化遺産の代表的な一覧」に記載されます。

遺跡、景観、自然などの世界遺産と同様に、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）で認定されており、日本でもこれまで、「和紙」や「和食」、「歌舞伎」等、日本文化を象徴する文化が登録されてきました。

愛知県内のユネスコ無形文化遺産登録は、「知立の山車文楽とからくり」を含む5件が初めてであり、三河地区では「知立の山車文楽とからくり」が唯一の登録となりました。

【知立山車文楽】

文楽（3人遣いの人形浄瑠璃芝居）は各地で上演していますが、山車の上で上演しているものは全国でも「知立山車文楽」だけです。

「知立山車文楽」は江戸時代（1747年「中町祭礼帳」）から始まっており、270年の歴史があります。

現在では、山町・中町・本町・宝町の4台の山車の上で「三番叟」「傾城阿波の鳴戸」「壺坂観音霊験記」「神靈矢口の渡し」などを上演しています。



【知立山車からくり】

知立の山車からくりは、浄瑠璃にあわせて、からくりだけのものがたりを上演する大変めずらしいもので、現在は西町が「一の谷合戦」、「平治合戦」を上演しています。

からくり人形は専門家ではなく、町内の人が工夫して作り、首以外は全て手作りのものを使用しています。

また、からくりの仕掛けは、その機構によって2つの系統に分けられます。一つ目は体内に仕組まれたバネとゼンマイ（いずれも鯨のひげ）で自動的に動くものです。

二つ目は1個の人形の体内に10数本の糸をひそませ、樋の中を通して数メートル後方から糸を操って操作するものです。

知立のからくりは後者に属し、ゼンマイ型よりはるかに高い技術が要求されます。その難易度から、上演に必要な人数も多く、「一の谷合戦」ではおおよそ10人が必要となります。



ユネスコ無形文化遺産

知立山車文楽一日体験入門

【山車文楽に親しもう】

ユネスコ無形文化遺産に登録された国指定重要無形民俗文化財・知立山車文楽の人形遣い、義太夫、三味線を体験してみませんか。山町人形連が優しく教えます。多くのご参加をお待ちしています。

▼とき 1月29日(日) 午前10時～11時30分

▼ところ 中山公民館（三河知立駅北100m・駐車場有）

▼対象者 どなたでもご参加いただけます。

▼参加費 無料

▼問合せ 山町人形連 三浦（☎810267）

